

## ア 7-7-3-1・ア 7-7-3-2

### 大坂南組玉造中町文書（現 大阪府大阪市中央区玉造）

#### ● 大坂南組玉造中町文書の番号について

2 箱に分蔵されている文書に、もともと記されていた番号は以下の通りである。

ア 7-7-3-1（箱①） 大坂南組玉造中町文書 1～11（史資料記号）

ア 7-7-3-2（箱②） 大坂南組玉造中町文書 12～14（史資料記号）、西大寺関係文書 2 冊無番号

これらに付されている番号については、もともと 1～14 の通し番号の記載された付箋が挟まっていた。これは「史資料記号」として目録に反映させている。玉造中町文書は、『関西大学所蔵 大阪関係資料目録』（昭和 35 年 1 月 1 日現在、関西大学図書館シリーズ No.6、関西大学図書館 昭和 35 年刊）に内容ごとの点数が掲載されているので（151 頁）、目録作成時に整理され、番号が付けられたのであろう。しかし、今回新たに、当初の番号ではなく、箱ごとに整理番号（通し番号）を付し、それを記した付箋を挟み直した。無番号の西大寺関係文書 2 冊に関しても、大坂南組玉造中町文書の一部として扱い、箱②の大坂南組玉造中町文書の整理番号に続く形で、新たに番号を記した付箋を挟んだ。さらに、挟み込み文書があった場合は枝番号を付し、「史資料記号」欄には「～の内」と表記した。整理番号については以下の通りである。

ア 7-7-3-1（箱①） 大坂南組玉造中町文書 1～11（整理番号）

ア 7-7-3-2（箱②） 大坂南組玉造中町文書（西大寺関係文書も含む） 1～5（整理番号）

#### ● 大坂南組玉造中町とその文書について

玉造中町（たまつくりなかのちょう）は、稻荷中之町ともよばれるように、玉造稻荷神社の南側に位置している。大坂三郷（南組・北組・天満組）のうち南組に属する。

『大阪府地名辞典』によれば、元禄 13 年（1700）の三郷水帳寄帳では、屋敷数 40・役数 45 役であり、安政 3 年（1856）には、屋敷数 31・役数 45 役であった。

大坂南組玉造中町文書は 3 つに大別できる。1 つめは、五人組帳である（箱①整理番号 1～11、史資料記号 1～11）。この五人組帳は、寛延元年（1748）から宝暦 9 年（1759）まで計 11 冊残っている。寛延 2 年を除いて通年で残っているため、人口の推移などが確認できる。

2 つめは、借家の人別帳である（箱②整理番号 1～3、史資料記号 12～14）。延享 3 年（1746）と宝暦 5 年、前欠のため年月日不明のもの、計 3 冊が残存している。

3 つめは、西大寺関係文書である（箱②整理番号 4～5）。現在の奈良県奈良市に位置する西大寺に関連するものと思われるが、大坂南組玉造中町文書に含まれている経緯は不明であり、その関係もわかっていない。西大寺関係文書は計 2 冊あるが、これには関西大学図書館の蔵書印が押されているため、古文書を整理した際に、大坂南組玉造中町文書へ混在してしまった可能性がある。

これらの文書を 3 つに大別したが、その出所は不明である。しかし、借屋人別帳（箱②整理番号 2、史資料記号 13）の宛所が、「年寄万屋弥兵衛殿」となっていることや、五人組帳の年寄が宝暦 5 年から「万屋弥兵衛」となっていることなどを考慮すると、「万屋弥兵衛」家に伝わっていた文書の可能性が推

測される。

○ 五人組帳について

この五人組帳（箱①整理番号 1～11、史資料記号 1～11）は、五人組に所属する家主が毎月押印している。9月に提出するため、10月から毎月、下から上へ一列に12か月分の判を押している。判の横に、月行司を何月に担ったのかなどについても記されている。また、土地を購入したことにより家持町人となり、月の途中で、借家主の印からその家持町人の印へ変化していることなど、非常に興味深い。

また、寛延2年の五人組帳以外は通年でそろっているため、人口の増減や、男女比なども検討することが可能である。寛延元年から宝暦9年までの間で、もっとも人口が多かったのは、宝暦8年で、405人（男性：219人、女性：186人）であった。おおよそこの時期の大坂南組玉造中町の人口は、350～400人前後であり、だいたい毎年増加している。人口の内訳を見ていくと、家持町人の人数や、借家に居住する人数、下人の人数なども記載されている。

○ 借屋人別帳について

この3点の文書（箱②整理番号 1～3、史資料記号 12～14）は、借家の家主、そこに居住する家族について記している。この文書も五人組帳と同様、毎月家長による押印がなされている。五人組帳と同時期のものであれば、それと照らし合わせることで、より詳細な調査が可能になると思われる。

年月日不明の借屋人別帳（箱②整理番号 3、史資料記号 14）については、前欠のため表紙はないが、内容から大坂南組玉造中町の文書であると推測される。

○ 西大寺関係文書について

この2点の文書（箱②整理番号 4～5）は、現在のところ、大坂南組玉造中町文書との関係は見出せない。

箱②整理番号 4 の文書については、「79787」の関西大学図書館蔵書印番号と、「\*330.21\*S11\*1」の請求記号が付されている。また箱②整理番号 5 の文書については、「79788」の関西大学図書館蔵書印番号と、「\*330.21\*S11\*2」の請求記号が付されている。

以上のことから、過去に整理された形跡があることと、「79787」や「79788」の番号から、他の文書と一括して番号がつけられていたと考えられる。また、蔵書印には、「26.7.5」の印が双方の文書にあることから、昭和26年（1951）に整理されていた文書ではないかと思われる。

→この2点について、近世文書から通常の図書扱いへと変更した。資料IDは000797880および000797871である。